

唐長安城大明宮太液池の共同発掘調査

はじめに

唐長安城大明宮太液池の調査は中国社会科学院考古研究所と共同で、2001年から5カ年計画で進めている。本年度はその4年目にあたる。これまでの調査概要は当研究所の『紀要』、中国の雑誌『考古』に発表している^註。

太液池の概要

大明宮は唐長安城の東北城外に拡張された宮城で、龍朔3年(663)に完成した。中国陝西省西安市の北郊外に位置する。南北2256m、東西1674mの城壁に囲まれ、平面台形状を呈し、総面積は約3.2km²ある。南北の中軸線上にならぶ三大殿の一つ・宣政殿から左右にのびる隔壁を境に、南半部の宮殿区、北半部の園林区に分かれる(図16)。

太液池は北半部の中央に位置し、園林の主要な構成要素である。宮殿は大明宮の中央を東西にはしる龍首原(丘陵地)上に位置し、池は北の窪地に造営された。太液池

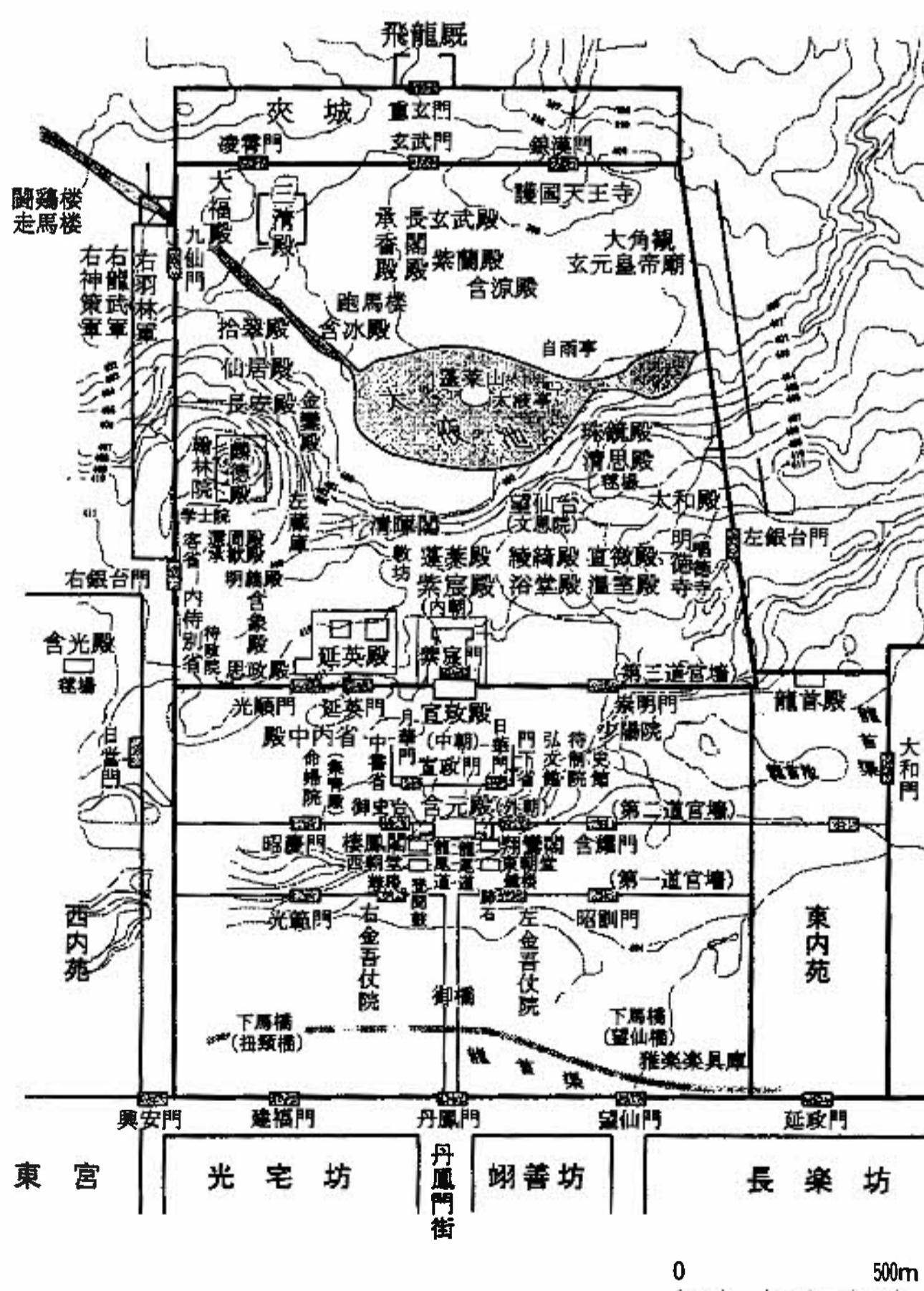


図16 唐長安城大明宮 1:25000 (妹尾達彦「長安の都市計画」2001に加筆)

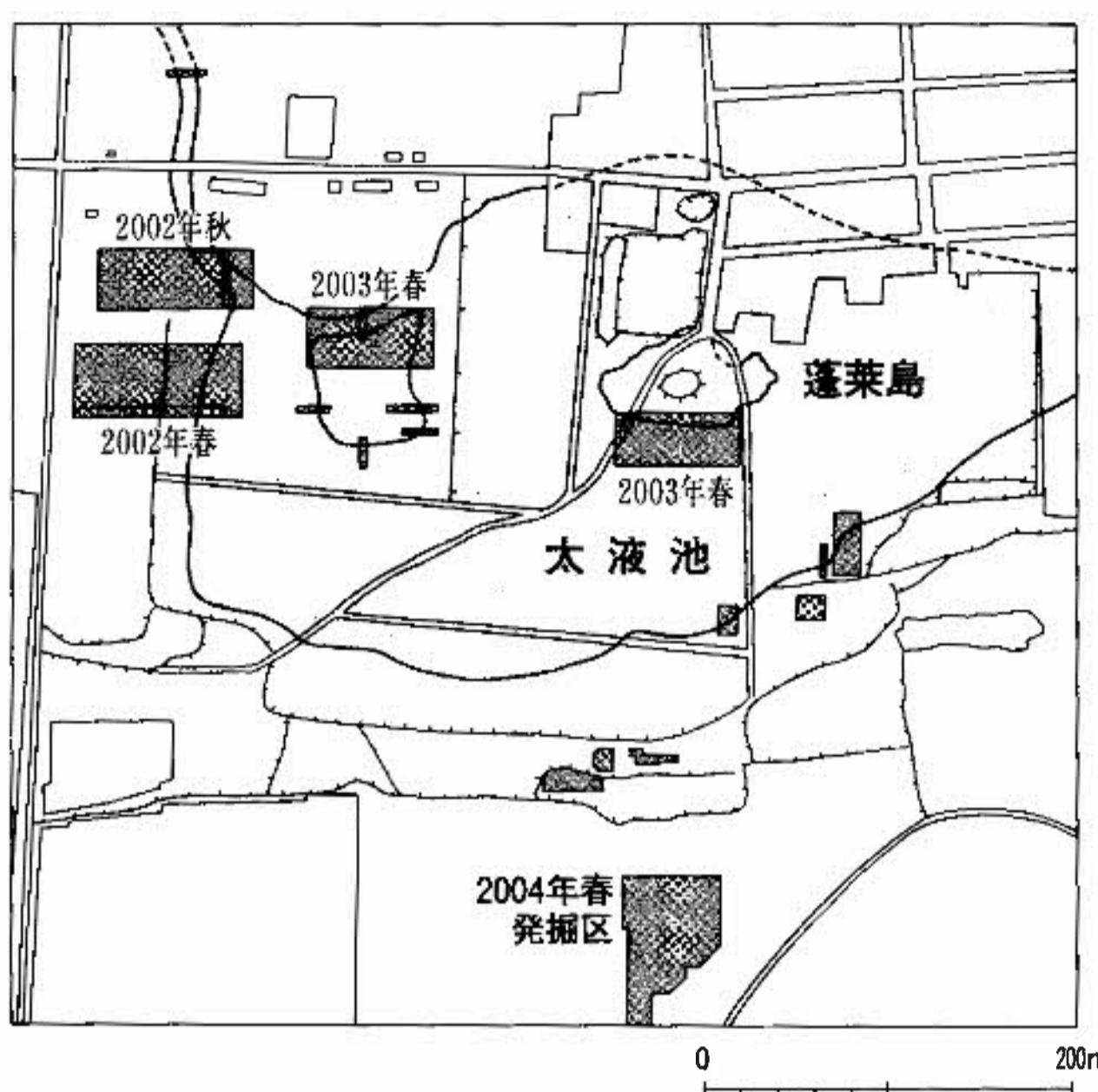


図17 唐長安城大明宮太液池の発掘調査位置図

の規模は東西484m、南北310mである。中央やや北よりには蓬萊島と考えられている島が残存している。

調査経緯

これまで3カ年にわたり、太液池の西岸、北岸、蓬萊島の南岸を調査してきた。本年度は太液池の南、龍首原上に発掘区を設定した(図17)。発掘区は三大殿(含元殿、宣政殿、紫宸殿)と蓬萊島を結ぶ大明宮の中軸線上に位置する。太液池南岸にある園林内建物の状況、南半部の宮殿区と北半部の園林区との関係を明らかにするのが調査の目的である。南北に長い発掘区を設定し、2004年の春に調査をおこなった。当研究所からは島田敏男、中村一郎、大林潤、今井が調査に参加した。本年度調査の概要是中国社会科学院考古研究所・独立行政法人奈良文化財研究所連合考古隊「西安唐大明宮太液池南岸遺址発現大型廊院建築遺存」『考古』2004年第9期に発表した。



図18 1号廊の発掘状況(北西から)

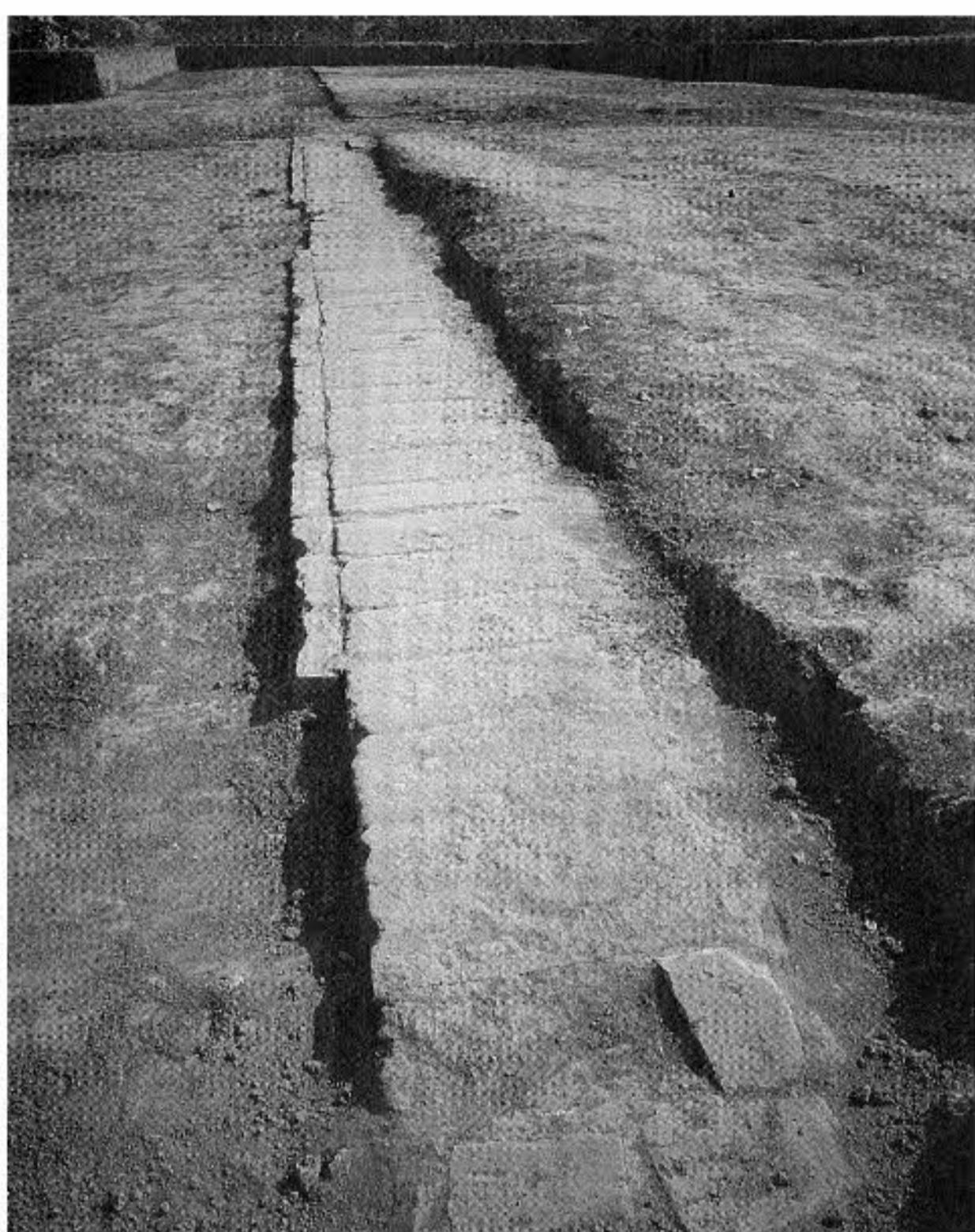


図19 1号廊東側の散水（北から）

調査成果

廊 東西方向4基、南北方向4基を検出し、それぞれ直交し連結する。すべて版築の基壇が残存するのみで、上面は削平され、礎石や据付堀形などは確認できなかつた。1号廊は発掘区の西南部にあり、南北76mを検出した（図18）。東西幅は7mある。基壇の両側には基壇化粧や散水（雨落）の磚が残存している（図19）。基壇の幅から推測して、両面ふき放しの複廊であろう。この廊は大明宮の中軸線上に位置し、規模も発掘区内でもっとも大きいことから主要な廊と考える。

塀 版築の塀を2基検出した。廊と直交する。塀の一部は廊の片側辺に連接し、単廊の壁を構成する。塀の壁面には白色あるいは赤色の層が残存し、発掘区から出土した壁面の破片には赤、緑、淡黄色の色彩痕跡があることから、廊の壁面には壁画が描かれていたと推測できる。

中庭 廊と塀に囲まれた方形の空間は大小各種ある。1号廊の東側に位置する中庭から、背に台座を乗せた象の石像が出土した。台座の上面中央にはほぞ穴があることから、上部には仏像（普賢菩薩か）があったと考える。このほか石灯籠の破片も出土した。出土品から推測して、この中庭には仏教関連施設があった可能性が高い。

排水溝 大小5基を検出した。最大の1号溝は幅約1.5m、深さ1.2mある。発掘区の東側を南北に走り、途中で屈曲しながら、発掘区の北にのびる。太液池に注ぐもの

と考える。溝の両側は磚を積み上げて構築しており、一部は廊の下をとおる暗渠となっている。

井戸 調査区の北辺に6基の円形井戸を検出した（図20）。井戸の直径は約1m、深さは7~10mある。壁面は磚を円形に長手積みして構築する。井戸がある一帯は建物のある場所より地面が低く、井戸が集中していることから宮殿の給水施設があったものと考える。また、井戸の周辺には景石状の花崗岩が、他所から運ばれ廃棄された状態で出土している。

出土遺物 大量の瓦磚類のほか、陶磁器片、金属製品などが出土した。瓦類は軒瓦、丸平瓦のほかに、鳴尾や熨斗瓦がある。瓦は黒色で光沢のある黒色磨研瓦がおおく、緑釉瓦も一部出土している。方磚は蓮華文が主体で、ほかに葡萄唐草文や四葉文がある。陶磁器では白磁がおおく、そのほか黒磁、青磁、三彩などが出でている。金属製品は釘や装飾金具、開元通宝が少量出土した。

おわりに

遺物の整理は現在進行中で、遺跡全体の詳しい検討、解釈も今後の課題である。発掘にともない、出土遺物の調査も隨時おこなっている。今後は両研究所が協力して遺物、遺構の調査研究をおこない、太液池を中心とする園林の状況を明らかにしていく予定である。（今井晃樹）

註

「唐長安城大明宮太液池の共同発掘調査」『紀要2003』、『同2004』。中国社会科学院考古研究所・独立行政法人奈良文化財研究所連合考古隊「唐長安城大明宮太液池遺址考古新収穫」・「唐長安城大明宮太液池遺址発掘簡報」『考古』2003年第11期。



図20 発掘区の北辺（西から）